

ユマニチュードを 学び始めた看護学生と 創始者のイブ・ジネストさんに 石田まさひろ参議院議員が インタビュー！



Yves・Gineste

石田まさひろ…参議院議員
イブ・ジネスト…ジネスト・マレスコッティ研究所所長 富山県立大学客員教授
本田美和子…東京医療センター総合内科医長、富山県立大学非常勤講師
高橋、羽生、寺島、鎌田…富山県立大学看護学部看護学科1期生
竹内登美子…富山県立大学看護学部教授、学部長
岡本恵里、青柳寿弥…富山県立大学看護学部教授、講師、ユマニチュード認定インストラクター
金沢小百合…ユマニチュード認定インストラクター
三谷順子、釣朱實、大上戸悦子…富山県看護連盟会長、副会長



前列、左から高橋さん、羽生さん、ジネストさん、寺島さん、鎌田さん
 後列、左から、金沢さん、釣さん、大上戸さん、三谷さん、石田議員、本田さん、竹内さん、岡本さん、青柳さん

今年からスタートした富山県立大学看護学部(竹内登美子学部長)では、看護系の大学としては日本で初めてユマニチュードを取り入れた科目「看護ケアとユマニチュード」を開講しました。ユマニチュードはフランスで考案されたケアの技術体系(N∞「アンフィニ」2014年の秋号で、ユマニチュードの概要を紹介しています)。学生たちは、4年間にわたって、ユマニチュードの哲学と技術を学び、看護ケアへの活かし方を探究します。ユマニチュード認定インストラクターでもある岡本教授(基礎看護学・科目責任者)と、同じくユマニチュード認定インストラクターである青柳講師(老年看護学)の2人が中心となり、全看護学教員(非常勤講師である認知症看護認定看護師を含む)52人が一斉に指導に当たります。創始者のイブ・ジネストさんも客員教授として、講義と演習で学生たちを指導するという体制です。ユマニチュードの演習が行われているところに、石



ユマニチュードの基本技術
 見る 話す 触れる

看護ケアとユマニチュードの演習

演習では123人の学生が2クラスに分かれて、ユマニチュードの基本技術の「見る」「話す」「触れる」を、学生同士で実際に体験します。例えば「触れる」の演習では、2通りの異なる方法で触れられた際に、それぞれの異なるように感じたかを記録し、感じた内容を発表。また、相手と視線を合わせて近づいていき、話しかけ、相手に触れるという一連の動作も練習します。

ジネストさんは、学生たちの間を回り、触れ方を指導していました。

石田議員がインタビュー ユマニチュードの 根底にある哲学

演習が終了した後、石田議員が、ジネストさんや学生たちから話を聴きました。まず、学生たちに、入学する前からユマニチュードを知っていたかを質問。女子2人は、ユマニチュードの授業を受けたくて、この大学を選んだと答えました。男子は2人も入学するまで知りませんでした。ユマニチュードの授業を受け、この大学に入ってから知ったそうです。演習の前日にジネストさんの講義がありました。学生の1人は「いきなり哲学の話がされたんです。ジネスト先生はフランス人で、フランス革命で掲げられた自由・平等・博愛のもと、人権を大切にしようという思想を受け継いでいて、その思想は共有されなくてはならないと話されました。ユマニチュードは、その思想とつながっているのだと知り、すごいなと思いました。今日、実際にやってみると難しく、講義で教わったようにはいきませんでした」と苦笑。「頭ではわかっていても、実際に技術としてやると、全然でした。でも、自分が不安に思っていることは、全部相手に伝わっているんだとすごく感じました。やっぱり、先生が授業でおっしゃっていたように、もっと自分からオープンにならなくて、患者さんに接することを恐れてはいけないうんと思えました」



学生のユマニチュードの技術を体験する石田議員



感触についてみんなの前で発表

触れ方で、どれだけ感じ方が違うか



ユマニチュードの
演習



学生に触れ方の説明をする岡本教授



ジネストさんが学生に触れ方のポイントを教示



相手の目を見つめ触れると、笑みがこぼれる



ベッドを回りながら指導するジネストさん



触れ方でどれだけ感触が違ったか記録



ユマニチュードを 導入すると離職率が 下がる?

ジネストさんが入ってきて、学生たちの間に座りました。

石田…いま学生に聞いたら、ユマニチュードを学べるので、この大学を選んだという人がいました。逆に、知らなかったけれど、学べることを知って、すごく嬉しかったという人もいました。

ジネスト…フランスでも、ユマニチュードを学べる学校に行きたいという学生はいます。富山県立大学がユマニチュードの授業を取り入れたのは、素晴らしい選択だと思います。また、ユマニチュードを導入している施設で働きたいという人も多いです。フランスで



ジネストさん、本田さんを囲んで受講生・教員が集合

は、施設によっては、看護師の離職率が30%くらいのところがあります。それが、ユマニチュードを導入している施設では、離職率がゼロになります。

医療費を抑えながら、 みんなが ハッピーになる?

石田…先日、とある病院で、退院される患者さんに聞いてみました。入院中に、出会った病院の人で名前を覚えていいる人はいますか、と。名前が出てきたのは、医師、リハビリの先生、そしてお掃除に来る補助者さんだけでした。看護師は、と聞いたら、みんな忙しいので話しかけにくかったから、誰が何をしているかわからなかった、と。患者さんと最も身近で触れ合うはずの看護師が、名前を覚えてもらえない。とても残念でした。ユマニチュードの技術や考え方を、ベシツクなものとして日本でも広めていいたら、看護師も名前を覚えてもらえるかもしれません。

ジネスト…高齢化が進む国では医療費がどんどん膨らみ、どの国も、その対応に苦慮しています。認知症が増えると、看護師は疲弊し離職していきますし、家庭崩壊も多く起こります。ひとつ興味深いデータがあります。看護師にユマニチュードをマスターしてもらおうのに1円予算をかけたると、5円分医療費を抑えられるというのです。たとえば、高齢者でせん妄があると、死亡率が25パーセント高まるといいます。せん妄が現れると長期間の入院になりかねません。ユマニチュードの導入によって、

せん妄が5分の1に抑えられたというデータもあります。つまり、入院されても、お家に戻れるケースが格段に増えます。その分、医療コストも抑えられます。そのコストの節約は、人の幸せにつながっているのです。そして、この違いに関わっているのは、看護ケアなのです。

ユマニチュードを病院や 施設に導入するには?

石田…僕が言いたかったのも、まさにその点です。限られた財源をどう効果的に使うかは、政治の大きなテーマです。併せて、多くの人がどうしたら幸せに生きることができかを考えなければいけません。演習をやってもいいですが、笑顔で近づいてくると、こっちも笑顔になる。する側も、受ける側もハッピーになる。

ジネスト…まだ始まったばかりです。技術としては400ほどありますから。**石田**…だから、しっかりと教育が必要なんです。どのくらいの時間がかかりますか?

ジネスト…フランスでは、病院や高齢者施設でユマニチュードを導入するとすると、すべてのスタッフが、10人ずつのグループに分かれて、ユマニチュードの研修を4日間受けます。病院に看護師と介護士が100人いたとして、4日間の研修を10回受けます。そして、その施設をまるごと変換するわけです。

本田…日本では、1つの施設から4日間の研修をまとめて10人出すことが不可能と言われることが多いです。1か月に1日しか出せない、それも数時

間しか出せない、とか。

石田…お金の問題もあるのかもしれませんが、人が幸せになるためのケアをきちんとするんだという意思決定が明確になれば、できないことではないと思います。

ジネスト…コスト的には、1年で研修の費用分は全部取り戻せます。ユマニチュードを導入することで、認知症関係で、処方されている向精神薬が90パーセント削減されることがわかっています。それだけでも、十分研修分の費用は賄えます。フランスの病院では、研修の費用分にあたるおむつ代が削減できたところがありました。日本でも本格的にスタートしたら、きつそうに思いますが。

ユマニチュードの技術で 看護の質が向上する?

石田…一から教える看護大学は初めてですから、すごく期待しています。卒業生の姿を見て、先輩の看護師たちがどう思うか見てみたいですね。

ジネスト…私は、看護ケアの新しいモデルをつくりたいと思っています。ユマニチュードを実践する看護師は、一日のコミュニケーションの量が、他の看護師より25倍も多いといわれています。でも、他の看護師ももちろんハートは大きい。思いは同じなんです。

石田…25倍! そうですね。ハートはみんな大きい、だけとやれていないんです。**ジネスト**…そうです。あとは、ユマニチュードの技術をもっていないだけのことなんです。私はみなさんに本当に期待しています。昨日の講義では「私たち日本人には、お互いに見合っ

触ってなんて、無理」って感じでした。それが、たった一日ですごくい進歩をさせているので、感動しています。

忙しい看護の現場に ユマニチュードを 導入できる?

学生…先生にそう言われて、とても嬉しいですが、でも、実際の現場は、すごく忙しくて、先ほどのお話にもありましたが、患者さんと話す機会なんてほとんどないようなイメージで、実際にいったら、本当にそのとおりでした。ユマニチュードをマスターしても、そういうところで使えるのかな、と疑問があります。しかも周りはユマニチュードを学んでいないし、理解もされていないかもしれない。私のほうも、患者さんのためになるのに、なんでやらないうらやまを感じたりしないか。そこで軌跡が生まれたいかと考えたりします。

ジネスト…きつと軌跡はあると思います。でも、絶対に忘れてほしくないのは、ユマニチュードを知らない人たちも、私たちと同じハートをもっているということ。人に優しくしたいし、愛情をこめたいと思っているんです。

金沢…やっぱり少しずつ仲間をつくっていくのがいいと思います。時間はかかるかもしれませんが、患者さんとの関係性がよい状況を周りが見ていけば、少しずつ広まって、仲間が増えていくと思います。

学生…忙しい急性期病棟でユマニチュードはできますか。
金沢…できます。たとえば、シャワー浴をいやがり暴れて拒否されている方

に、スタッフを何人も投じて、何十分も苦しい思いでケアしていることがあります。それを、最初に関係性をつくる時間を少しとって、お互いに関係のいい状態でシャワー浴をすると、時間は短くなりますし、お互いに幸せな気持ちで終えることができます。

石田…今日はありがとうございました。ごさいます。日本の未来が幸せになるように、学生みんなに頑張ってもらいたい。僕も頑張ります。最後に、ジネストさんに一言、日本へのメッセージをお願いします。

ジネスト…フランスと日本は、全く異なる国ではありますが、似ているところもあります。みんな美味しいものが好きです。女性たちが美しいという点も同じです。また、日本は他の国よりもユマニチュードに関する研究が進んでいます。今、ユマニチュードに関する研究の90パーセントは日本で行われています。フランスでは40年の歴史のあるユマニチュードですが、医科大学にユマニチュードが入っているのは日本だけでした。フランスで今年やっと一か所医科大学に入りました。一方で、日本では病院や施設にユマニチュードを導入していくのがたいへんです。だけど、スタートしたいから、これからも皆さんのご協力をお願いいたします。



ジネストさん、学生たちにインタビューする石田議員